

*Japan Polymer Technology Co., LTD*

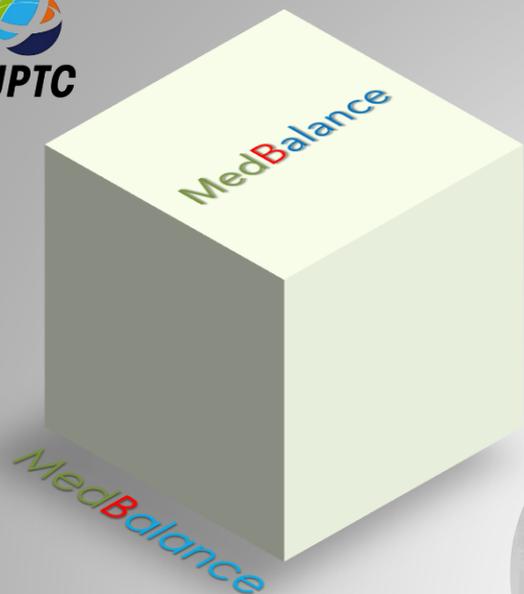
練習用持針器・腹腔鏡手術下縫合練習用製品のパイオニア

**日本高分子技研株式会社**

*Company & Products We Carry*

JPTC Laparoscopic Training Lab that fits in your bag





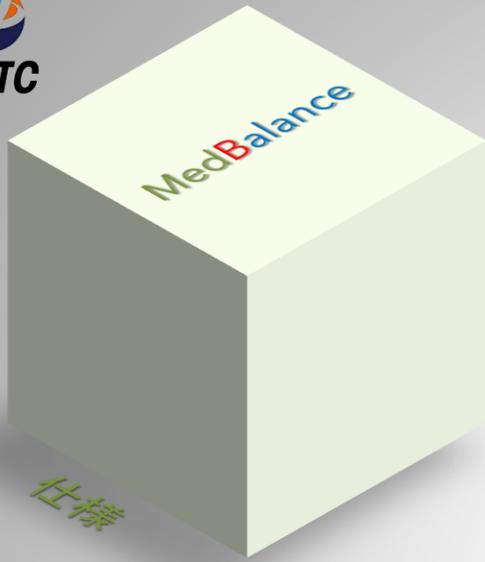
## 多目的トレーニングラボ

製品形状はドーナツ型で握って持つことができ、カバンに入れて持ち運びができます。

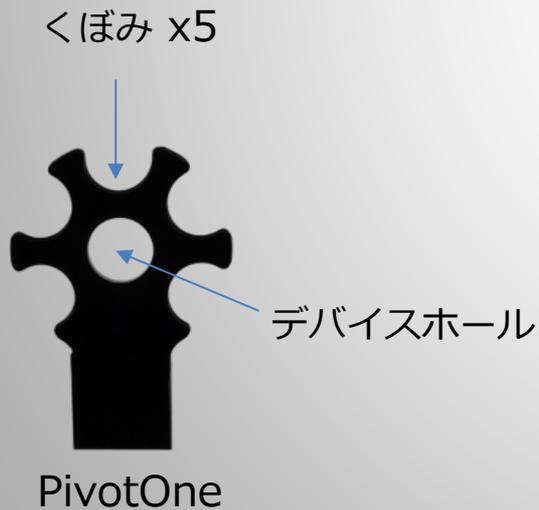
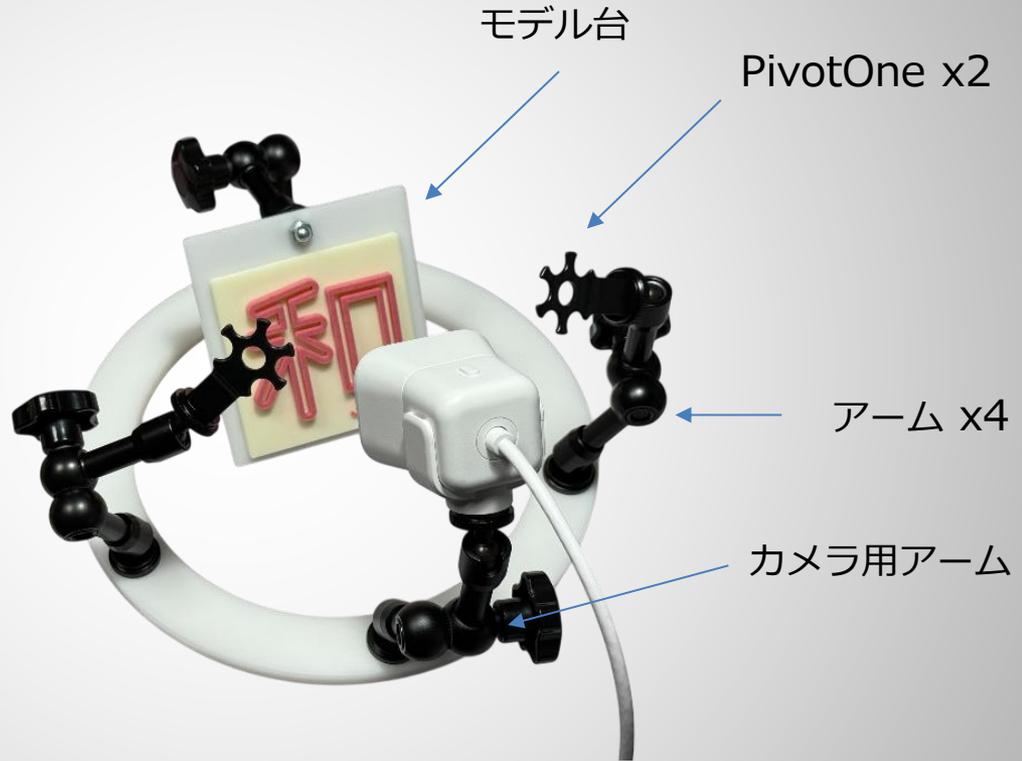
トレーニングが終わったらインテリアのひとつとして壁に掛けることもできます。

総重量は900gで、アームを折りたたむとカバンに入れて持ち運びができます。国内外へ出張する際にスーツケースに入れることなく、カバンに入れて機内へ持ち運びができます。

国立大学法人 稲木紀幸教授(医薬保健研究域医学系 消化管外科学/乳腺外科学)と共同で開発をした「手ブレ矯正」と「通常のトレーニング」ができる二刀流構造のPivotOneを搭載し、様々な診療科の医師を対象に内視鏡下縫合トレーニングができます。

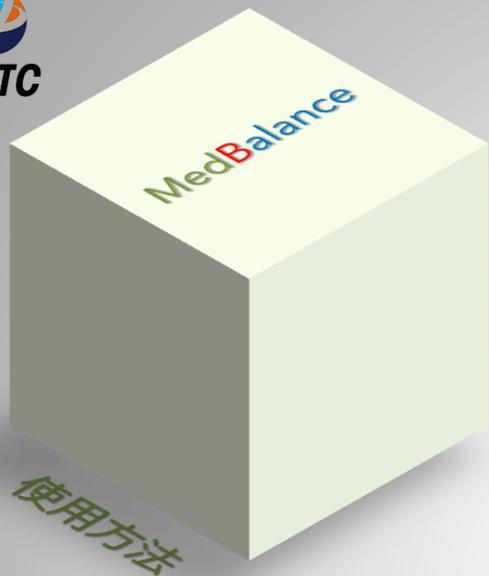


# MedBalance

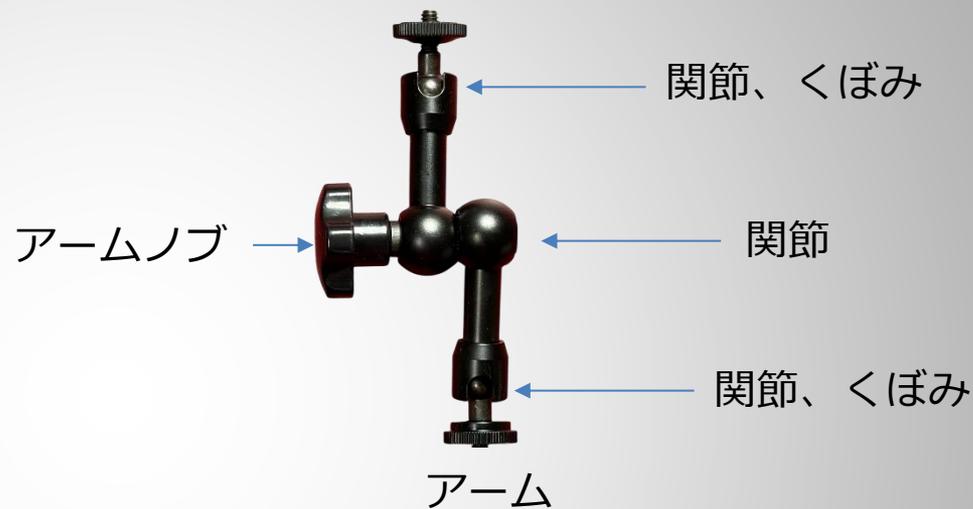


重量 920 g  
アーム 4本  
PivotOne 2台

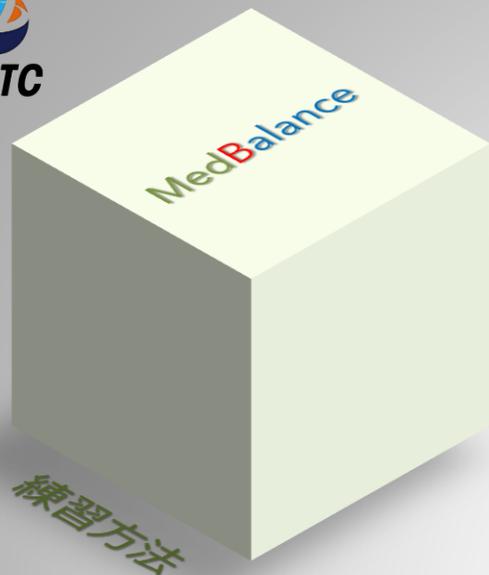
価格 44,000円  
(送料・消費税別)  
カメラ、モデルは別売り



# MedBalance



- ・アームのノブを緩めると、各関節が緩みます。
- ・左図のように各アームを適当な位置にしてノブを締めると固定されます。
- ・カメラ用アームへはWebカメラ若しくはビデオカメラを装着してください。  
ノブを締めた状態でアーム上部のネジに差し込んでください。



# MedBalance



デバイスホールを使う



くぼみを使う

参考例として次の3ステップを紹介いたします。時間をかける必要性はなく、日々のトレーニングに加えてください。

## ① 通常の縫合結紮トレーニング (5~10分)

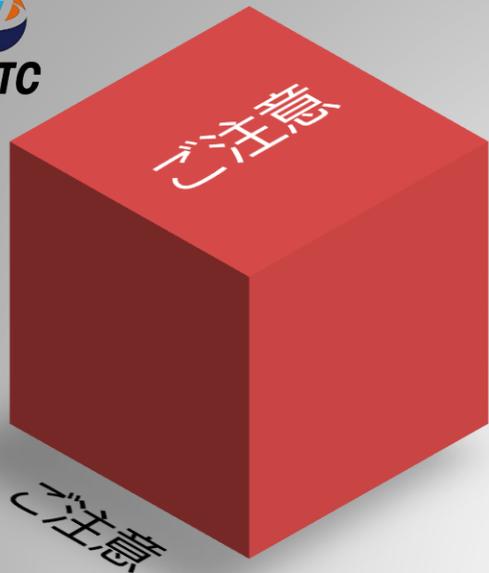
デバイスホールを使用し、通常の縫合結紮操作を行います。現在の自分の操作感覚を把握するステップです。ここで手ブレを感じる場合はすぐにステップ②へ。

## ② 手ブレ矯正トレーニング (5~10分)

PivotOneの円周に配置された「くぼみ」にのひとつに鉗子を軽く押し当てます。くぼみの底に鉗子が触れている感覚を常に意識しながら、「ゆっくり」と縫合操作を行うことがポイントです。意識が途切れると鉗子が外れてしまうため、自然と“安定した操作”を身体が学習します。

## ③ 再度、通常の縫合結紮トレーニング (5分~10分)

再びデバイスホールを使用して縫合結紮を行うと、1回目とは異なる“安定した感覚”に気づくはず。これこそが、手ブレ矯正トレーニングの効果を実感できる瞬間です。



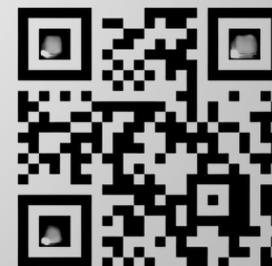
# MedBalance



1. 設置場所は、ホコリや液体などが無い安定したテーブルでご使用ください。
2. アームのノブを締めた状態で、アームを曲げたりしないでください。  
故障の原因となります。
3. アームを必要以上に回すとアームが破損し、アームが使用できなくなります。
4. デバイスホールへ持針器、鉗子類を挿入後にホール形状を超えるような角度で力を加えないでください。  
持針器・鉗子類若しくはPivotOneを破損することとなります。
5. 壁のフックに掛ける際は、フックの耐荷重を確認してください。耐荷重が1 Kg未満の場合落下します。耐荷重2 Kg以上のフックをご使用ください。  
フックが粘着剤を使用したものは、耐荷重以下で落下することがありますのでご注意ください。



お問合せ  
日本高分子技研株式会社  
電話：03-5201-3735  
メール：inoue@jptc.co.jp



Shop